

山車概要

熊谷うちわ祭では、熊谷市の各町区を代表する 12 の山車と屋台が担がれます。このうち 7 つが高さ 9 メートルにも及ぶ山車で、そこには太鼓の神谷歴史的人物などが描かれています。残りの 5 つは、屋台と呼ばれる神輿です。すべての神輿に神社に似せた凝った彫刻と装飾が施されており、前面には、太鼓や鐘や笛を演奏するための舞台が設置されています。祭りの 3 日間、神輿は熊谷市街の各地を移動し、夜になると、熊谷駅前の祭り広場に並べられます。

19 世紀末までは、熊谷うちわ祭は神道の儀式で、神輿の巡行のみが行われていました。明治時代（1868～1912 年）になると、絹産業が繁盛したため、熊谷市は地域の商業の中心地となりました。19 世紀末、第二本町区は、年中行事で使うための豪華な祭用の神輿を東京から購入しました。他の町区は祭りへ向けて独自の山車や屋台を作るようになり、その過程で有効的なライバル関係が生まれ、祭りはさらに刺激的なものになっていきました。